

4月7日・母子の健康月間

「外部卓話」「電力の自由化について」中国電力宇部営業所 小枝一彦所長

特別月間・母子の健康月間に因んでお話しします。

母の日「5月の第2日曜日今年5月8日」に合わせてお母さんにやさしい国ランキング2015、国際的な子ども支援NGOである「セーブ・ザ・チルドレン」では世界各国で発行する「母の日レポート」から「お母さんにやさしい国ランキング」を発表しました。このランキングは5つの指標をもとに1)妊産婦・死亡の生涯リスク2)5歳未満児の死亡率3)公教育の在籍年数4)国民1人あたりの所得5)女性議員の割合。保健・栄養、教育、経済、政治への女性参加を総合的に勘案の上算出している。去年は179カ国を対象に調査を行い第1位となったのはノルウェー（昨年第2位）で第2位にフィンランド（昨年第1位）第3位にアイスランド（昨年第4位）が続きました。第4位デンマーク第5位スウェーデンと北欧諸国がベスト5を独占しています。北欧諸国が上位を独占するのは例年通りですが日本のランキングは残念ながら相変わらずの推移で今年の結果は昨年と変わらず第32位でした。【下位10カ国】1)ソマリア連邦共和国2)コンゴ民主共和国3)ニジェール共和国(同率)4)マリ共和国(同率)5)ギニアビサウ共和国6)中央アフリカ共和国7)シエラレオネ共和国8)ナイジェリア連邦共和国9)チャド共和国10)コートジボワール共和国。日本のランキングが他の先進国より低い大きな要因は女性議員の割合の低さにあります。議員・議席の一定比率を女性に割り当てる「クオータ制」の導入などで状況を改善する国が増えるなかで、日本の女性議員の割合（11.6%）は179カ国中140位でありインドや韓国などよりも低い数値になっています。上位の国の特徴的なものはノルウェーが1970年代に世界で初めて男女平等に関する法律を成立させた。フィンランド有給の育児休暇は263日間あり育児を分担し公的な育児や国家負担の給食があります。アイスランド風俗産業の影響を真剣に取り上げ積極的な対策に取り組んでいます。スウェーデン女性国会議員数においては世界で第4位ですが労働人口の77%は女性です。統計によると女性は海外取引における60%近くの金額を生み出しているそうです。産休は69週「483日」1年4カ月この産休は配偶者と共有することができるため産休以上のものだと言えます。ニュージーランド女性に選挙権を与えた世界初の国1893年(明治26年)に投票権を得ています。2000年には女王、知事、首相、国会の議長そして最高裁判所の裁判長といった最重要とされる職位の全てに女性が就任しています。イギリス政府が健康保険を提供しているシングルマザー向けに政府からの補助金などの給付制度が充実しています。カナダ上院議員の38%が女性です。アメリカ合衆国上級管理職に就いている女性の割合は46%です。オランダはLGBT（性的マイノリティ）の人々がしかるべき自由を確保し女性の開放を完遂させるための特別な指針が立案されています。以上日本もまだまだ学ばなければならないところがあると思います。10歳までの子どもを連れて行きたい海外旅行先を尋ねたところ2位は「オーストラリア」（36.1%）、1位は？・・・1位は「ハワイ」（58.2%）でした。3位はグアム（35.8%）となっているようで10位以内にはサイパンやバリ島などのビーチリゾートもランクインしており比較的のんびり・ゆったり観光できる場所が好まれているようです。行ってよかった海外観光スポット、3年連続で1位は「アンコールワット」だそうです。特別月間・母子の健康月間に因んでお話ししました。